



2020年3月9日

SOMPOひまわり総健リサーチ第3弾
「日本のFemtech（フェムテック）市場の可能性に関する調査」
～注目を集めるFemtech、女性の半数以上が期待
改善を希望する分野は「生活習慣」「ストレス」「更年期」～

SOMPOひまわり生命保険株式会社（社長：大場 康弘、以下、「当社」）は、健康応援企業としての取組みをさらに発展させるために、昨年11月より健康に関する調査・研究・情報発信チームとして「SOMPOひまわり総合健康応援団^{※1}」（以下、「SOMPOひまわり総健」）を発足しています。

この度、このSOMPOひまわり総健リサーチ第3弾として、全国の女性1000名に対して、世界的に注目を集める“Femtech（フェムテック）”（女性の健康問題をテクノロジーで解決する分野）に関する調査を実施しました。当社では、乳がんの早期発見・万が一の保障・治療後のケアまで、トータルにサポートする女性のためのがん保険「リンククロスピンク（<https://linkx.life/lp/pink/product/>）」（2018年8月発売）など女性の健康をサポートする商品やサービスを以前より展開しています。また、健康経営の一環で女性の健康に積極的に取り組むことが評価され、健康経営優良法人2020（ホワイト500）にも認定されました（[参考情報](#)、別紙参考資料参照）。女性の健康に積極的に取り組む企業として、当社は昨日3月8日の世界女性デーにあわせ、本調査の結果を発表します。この調査結果をもとに、新たな健康応援商品・サービスの開発や健康経営の取組みを強化し、全ての人が生きいきと健康に生きられる社会を作っていくことを当社は目指してまいります。

※1「SOMPOひまわり総合健康応援団」は広報グループ内の特別チームとして発足しました

1. 調査結果サマリー

PART 1. 日本におけるFemtechの認知

■Femtechの認知度はわずか1.5%。ただし、意味を知ること、半数以上がFemtechに対して「興味」と「期待」を持つ。特に若年層ほど高い「興味」「期待」を持つ傾向。

PART 2. 女性の悩み別Femtechの現状

■解決を期待する【女性のからだ・健康の悩み】。1位「生活習慣管理（43.2%）」、2位「精神的ストレス（42.0%）」、3位「更年期・年齢によるホルモンのゆらぎ（37.3%）」。すでに利用しているFemtech関連サービスの分野、1位「月経・生理にまつわる身体的な悩み（10.1%）」。

PART 3. 働く女性とFemtech

■【女性のからだ・健康の悩み】が原因で働いていて困った経験がある女性は42%。一方で、自身の勤務先が【女性のからだ・健康の悩み】に取り組んでいると感じている人は20%未満。

■勤務先がFemtech分野のツールを福利厚生で提供してくれるとすれば利用したい人は50%以上。女性のからだ・健康の悩みの解決によって、自身の仕事のパフォーマンスは平均で+41%改善されると思う。

PART 4. 今後のFemtechの可能性

■Femtechサービスの利用意向について、有料での利用意向上位は「疾病の予防・早期診断（31%）」「疾病の治療（31%）」「生活習慣管理（31%）」「精神的ストレス（30%）」

1人あたりの年間投下可能金額の合計平均は8,359円。

2. 調査概要

調査対象：全国の20代～60代の働く女性1000名（各年代200名ずつ）

調査手法：インターネット調査

調査期間：2020年2月28日～3月2日

※各調査結果の詳細は次頁以降をご参照ください。

※本調査結果をご利用の場合は、「SOMPOひまわり総健調べ」のクレジットを併記ください。

SOMPOひまわり総合健康応援団の発足背景・概要

SOMPOひまわり生命では、2016年度より商品・サービスを通じてお客さまが健康になることを応援する健康応援企業として、保険本来の機能（Insurance）に、健康を応援する機能（Healthcare）を組み合わせ、「保険+健康（Insurhealth®：インシュアヘルス）」を提供しています。

「SOMPOひまわり総健」は、この健康応援企業としての取組みをさらに強化し、今後、“人生100年時代の健康”を軸に、幅広い世代を対象に調査・研究を行い、世の中の動きにあわせた様々な取組みを情報発信してまいります。

■参考：第1弾調査「7歳の人生100年時代調査（2019年11月13日発表）

<https://www.himawari-life.co.jp/~media/himawari/files/company/news/2019/a-01-2019-11-13.pdf>

第2弾調査「糖尿病予備軍と非予備軍の生活習慣比較調査（2019年12月24日発表）」

<https://www.himawari-life.co.jp/~media/himawari/files/company/news/2019/a-01-2019-12-24.pdf>

【Femtech インフルエンサー：セントジョン 美樹さんのコメント】

Femtechは、女性のからだケアを、デジタル時代の価値観で再定義した、製品やサービス群ととらえています。対象とするユーザーは全世界の「女性」全般であることから、その潜在的な市場規模は非常に大きく、かつテクノロジーとの親和性が高いミレニアル世代やその次の世代が、一定の人口ボリュームを占めてくることで、今後の市場拡大を後押しすると考えています。

モバイルアプリやウェアラブルデバイスで、自身の体調を手軽にトラッキングするものは日本でもサービス利用が進んでいます。欧米ではさらに、疾病の早期発見検査キットや、遠隔診療、カウンセリング・コーチングのプラットフォーム提供などという分野で数々のソリューションが生まれています。企業が人材採用や健康経営の視点から、福利厚生プログラムとして Femtech ソリューションを利用するケースが増え、女性従業員のキャリアと健康を一緒に考える姿勢がミレニアル世代に評価されているといえます。



【プロフィール欄】

セントジョン 美樹 (Miki St. John)

デロイトトーマツ ベンチャーサポート株式会社 (DTVS) 海外事業部 北米事務所マネージャー (サンフランシスコ在住)

<経歴>

独SAP日本法人にて管理会計を専門として、ERPシステム開発、業務改革プロジェクトに従事。その後、オーグス総研にて、日米間のパートナーシップ開拓業務を担当。2008年Google日本法人、広告営業部に入社。

社内では、20%ルールを利用して、日本におけるダイバーシティ&カルチャー導入を推進。Women@Google（女性従業員のための公式なグローバルコミュニティ）のリーダーとして、アメリカ本社に直接直訴しながら、各種日本オフィス向けプロジェクトを立案推進。男女管理職向けの社内教育や次世代女性リーダー開発プログラムの企画にも関わる。

2017年サンフランシスコに移住。北米スタートアップの日本進出の支援をしながら、2018年にDTVSへ入所し、主に日系企業が絡むオープンイノベーションプロジェクトに携わる。

PART 1. 日本における Femtech の認知度

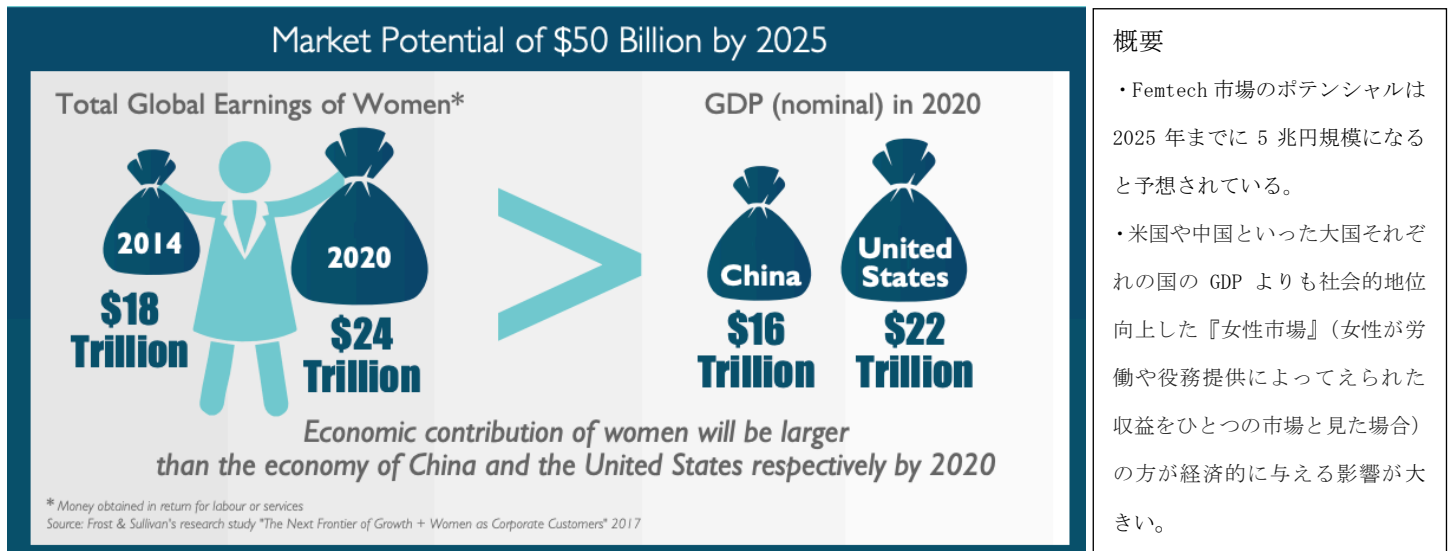
Femtech（フェムテック）とは、Female+Technology を組み合わせた造語で、月経トラッキングや、排卵日予測、不妊治療から更年期障害支援にいたるまでの、【女性のからだ・健康の悩み】をテクノロジー全般で解決できる分野のことを指します。一般的にはまだ馴染みのない言葉ですが、世界的には大きな注目を集めており、世界全体でのFemtech業界への投資額は2012年の約60億円規模から2019年の約800億円規模^{*2}となり、10倍以上に増加。2025年には世界での市場規模が約5兆円規模になるという推測^{*3}もあります。

※2 出展：Forbes（リリース日時点）

<https://www.forbes.com/sites/estrellajaramillo/2020/01/08/femtech-2020-investors-trends-and-opportunities-in-womens-health-technology/#709413fd7d54>

※3 出典：英シンクタンク Frost & Sullivan（フロストアンドサリバン）FEMTECHに関するレポート（2018）

https://ww2.frost.com/files/1015/2043/3691/Frost_Sullivan_Femtech.pdf



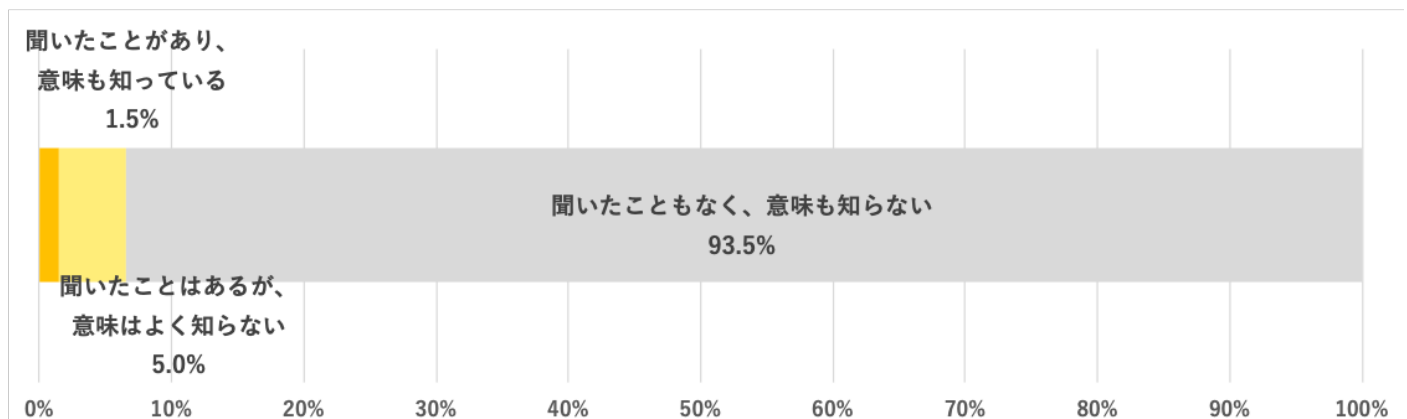
概要

- ・Femtech 市場のポテンシャルは2025年までに5兆円規模になると予想されている。
- ・米国や中国といった大国それぞれの国のGDPよりも社会的地位向上した『女性市場』（女性が労働や役務提供によってえられた収益をひとつの市場と見た場合）の方が経済的に与える影響が大きい。

日本でも、Femtechを紹介するイベント『Femtech Fes!!』が2019年9月に東京で開催されるなど、徐々に注目されているキーワードです。まずは、Femtechの認知度や関心について、日本の働く女性たちに聞いてみました。

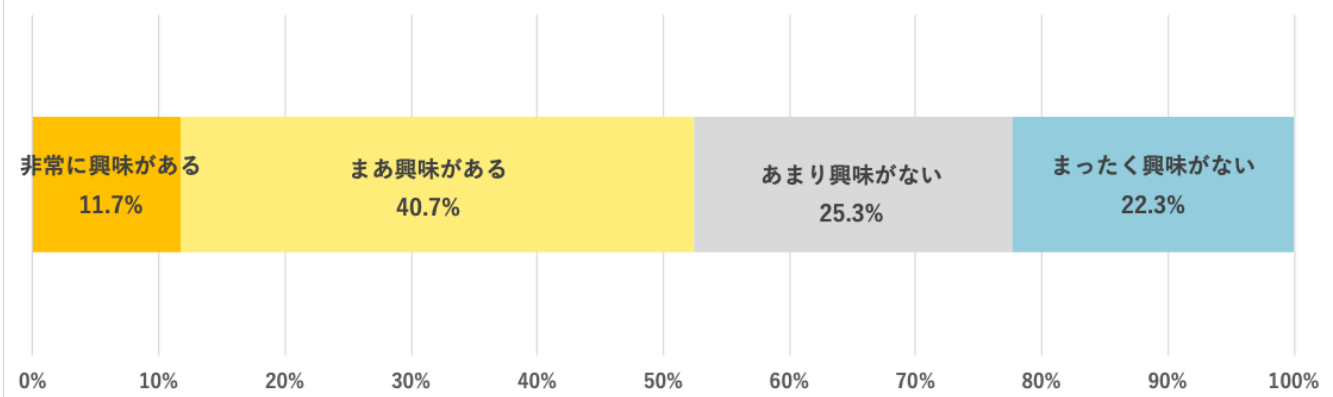
- Femtechの認知度はわずか1.5%。90%以上の女性は「聞いたこともなく、意味も知らない」と回答。
- Femtechの意味を知ることによって、全体の半数以上が「興味」と「期待」を持つ。特に20代、30代は約7割近くと、若年層ほど高い「興味」「期待」を持つ傾向。

Q1. Femtech（フェムテック）という言葉を知っていましたか？（SA）n=1000名



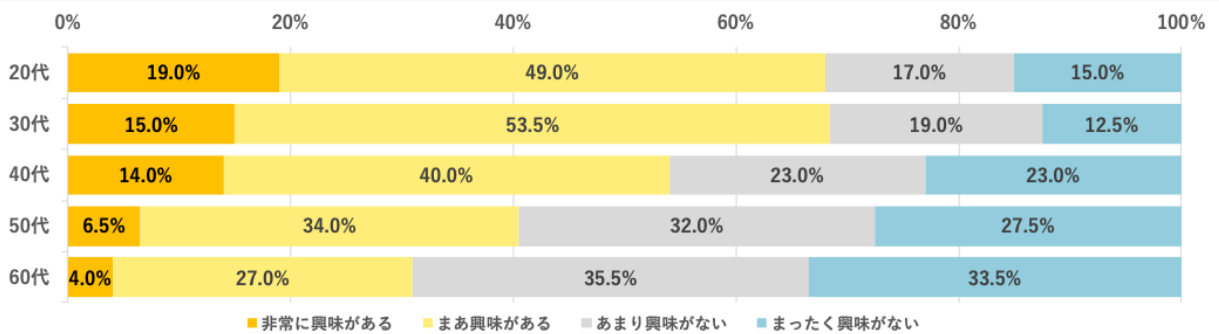
Q2. Femtechの意味を知った上で、どの程度興味を持ちましたか？ (SA)

n=1000名



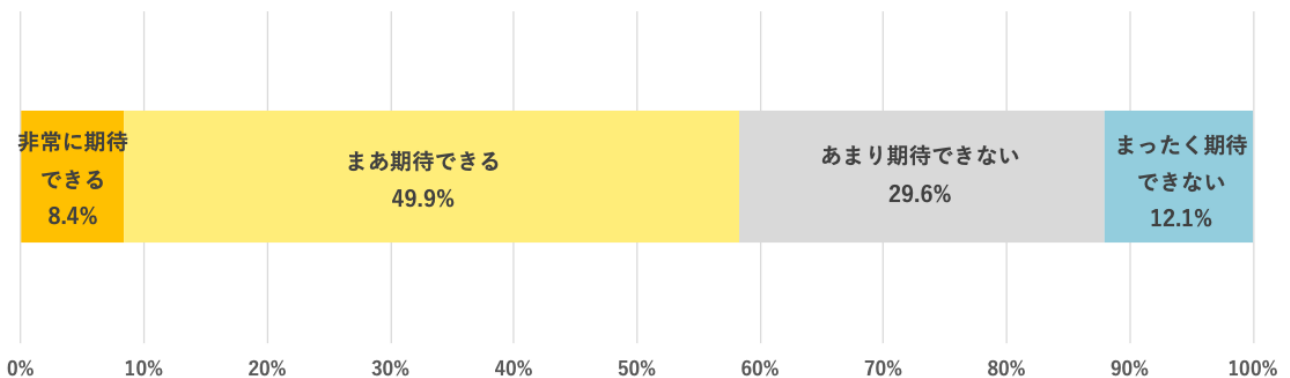
Q2-2. Femtechの意味を知った上で、どの程度興味を持ちましたか？ (SA)

n=1000名 (各年代200名)



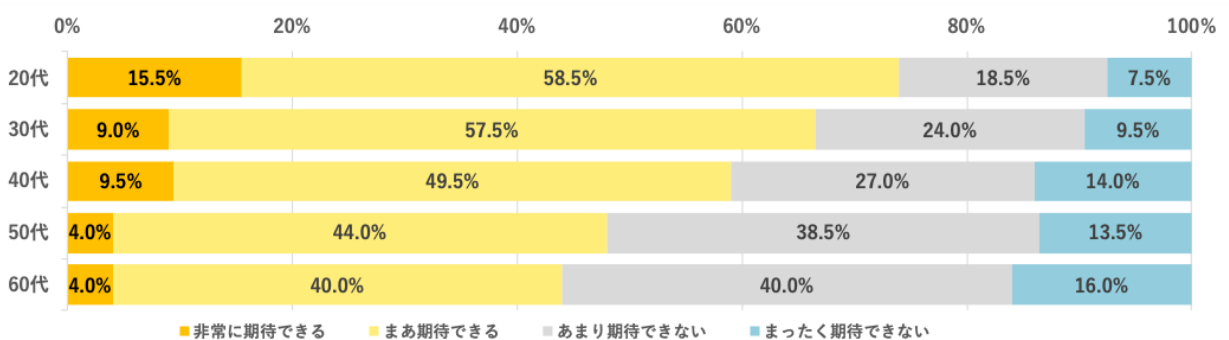
Q3. Femtech の意味を知った上で、どの程度期待を持ちましたか？ (SA)

n=1000名



Q3-2. Femtechの意味を知った上でどの程度期待を持ちましたか？ (SA)

n=1000名 (各年代200名ごとの集計)



PART 2. 女性の悩み別 Femtech の現状

続いて、Femtech（フェムテック）によって解決を期待する様々な女性のからだ・健康の悩みについてより詳しく調査してみました。

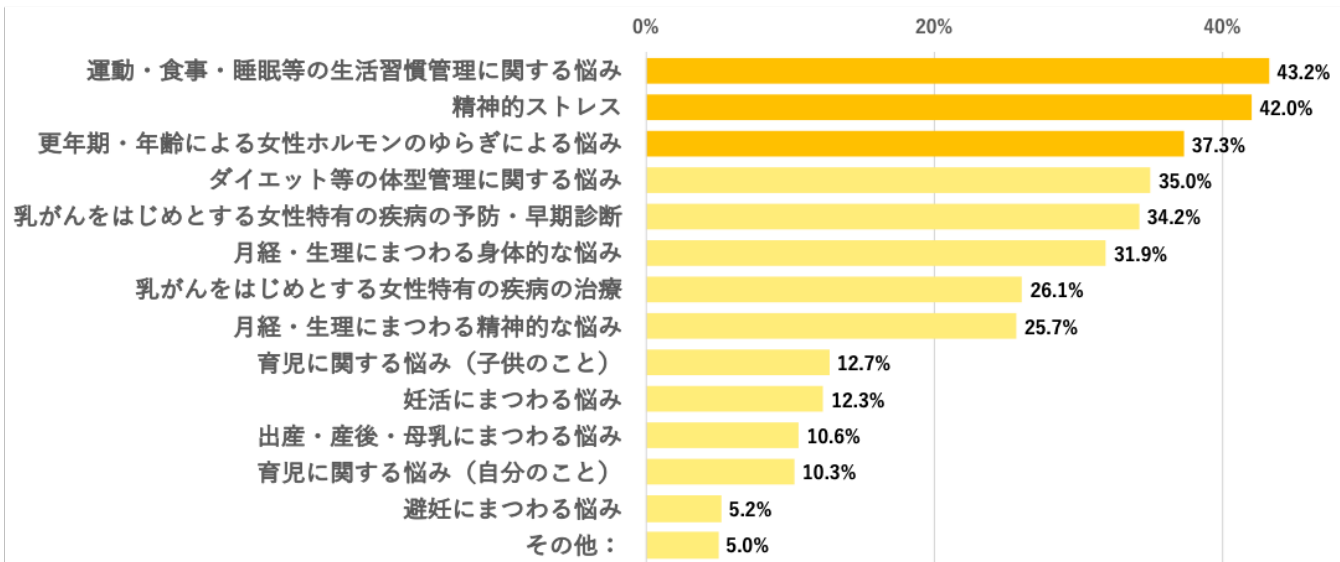
■解決を期待する【女性のからだ・健康の悩み】。1位「生活習慣管理（43.2%）」、2位「精神的ストレス（42.0%）」、3位「更年期・年齢によるホルモンのゆらぎ（37.3%）」。

年代によって、悩みの分野は異なる傾向。

■すでに利用している Femtech 関連サービスの分野 1位は「月経・生理にまつわる身体的な悩み（10.1%）」。有料サービスの利用率が高いのは「乳がんをはじめとする女性特有の疾病の予防・早期診断」「乳がんをはじめとする女性特有の疾病の予防・早期の治療」。

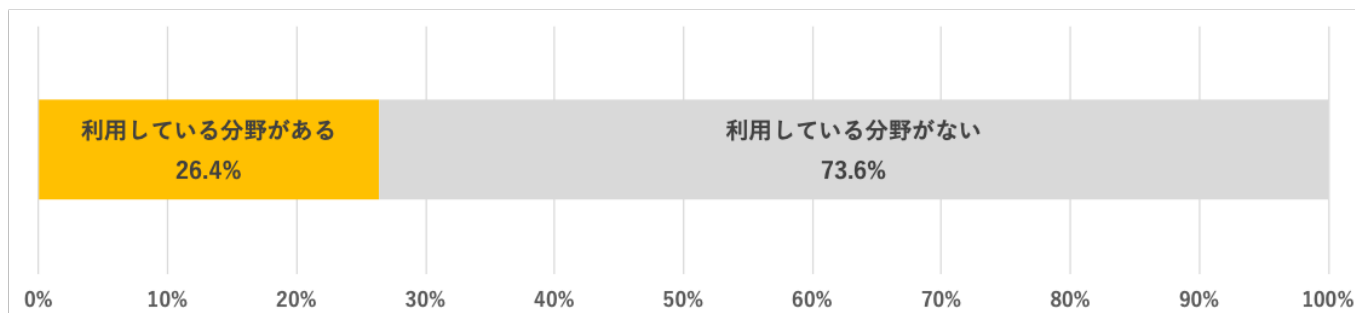
年間の投下金額が高い傾向にあるのは「妊活にまつわる悩み」「精神的ストレス」だが、利用率は低く、現状では、市場としては限定的。

Q4-1.Femtechによって解決を期待する【女性のからだ・健康の悩み】はどんなものですか？ (MA) n=1000名



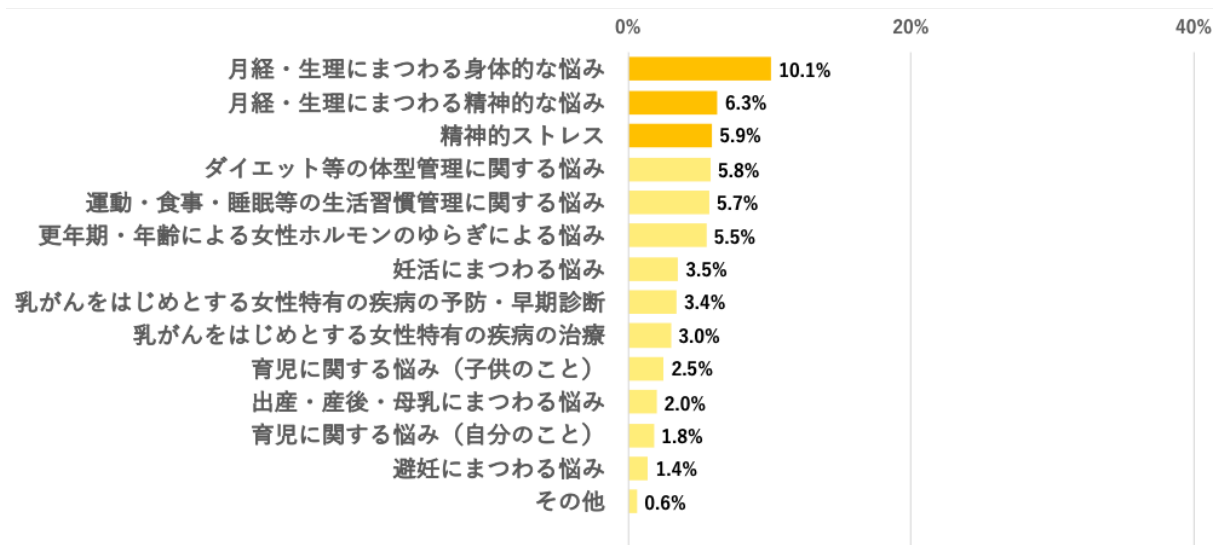
	1位	2位	3位
20代	月経・生理にまつわる 身体的な 悩み	月経・生理にまつわる 精神的な 悩み	運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み
	59.0%	45.5%	41.0%
30代	月経・生理にまつわる 身体的な 悩み	精神的ストレス	運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み
	48.5%	45.5%	44.5%
40代	更年期・年齢による女性ホルモンのゆらぎによる悩み	精神的ストレス	月経・生理にまつわる 身体的な 悩み
	56.0%	46.0%	39.5%
50代	更年期・年齢による女性ホルモンのゆらぎによる悩み 運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み		精神的ストレス
	49.5%		41.0%
60代	精神的ストレス	運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み	乳がんをはじめとする女性特有の疾病の予防・早期診断
	46.5%	44.5%	31.0%

Q5-1.各悩みのうち、すでにアプリやWebサービス等、何らかのテクノロジーを使ったサポートや解決手段であるFemtechのサービスを利用している分野はありますか？（SA）n=1000名



Q5-2.すでにアプリやWebサービス等、何らかのテクノロジーを使ったサポートや解決手段であるFemtechのサービスを利用している分野について回答ください（MA）

n=各サービスを利用している264名



Q5-3.すでにサービスを利用している分野について、それぞれの分野のサービスに年間いくらかの費用をかけていますか？（SA）n=1000名

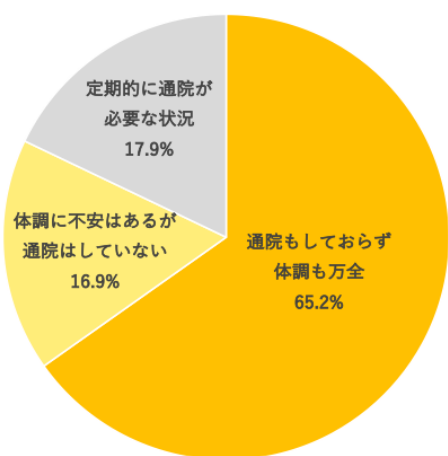
	サービス利用率	年間平均投下金額 (利用者みの平均)
1.月経・生理にまつわる精神的な悩み	6.3%	¥1,810
2.月経・生理にまつわる身体的な悩み	10.1%	¥1,649
3.妊活にまつわる悩み	3.5%	¥6,200
4.避妊にまつわる悩み	1.4%	¥1,893
5.更年期・年齢による女性ホルモンのゆらぎによる悩み	5.5%	¥1,855
6.出産・産後・母乳にまつわる悩み	2.0%	¥275
7.育児に関する悩み（子供のこと）	2.5%	¥440
8.育児に関する悩み（自分のこと）	1.8%	¥639
9.乳がんをはじめとする女性特有の疾病の予防・早期診断	3.4%	¥1,838
10.乳がんをはじめとする女性特有の疾病の治療	3.0%	¥2,350
11.ダイエット等の体型管理に関する悩み	5.8%	¥2,767
12.運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み	5.7%	¥2,404
13.精神的ストレス	5.9%	¥4,127
14.その他	0.6%	¥750

PART 3. 働く女性と Femtech

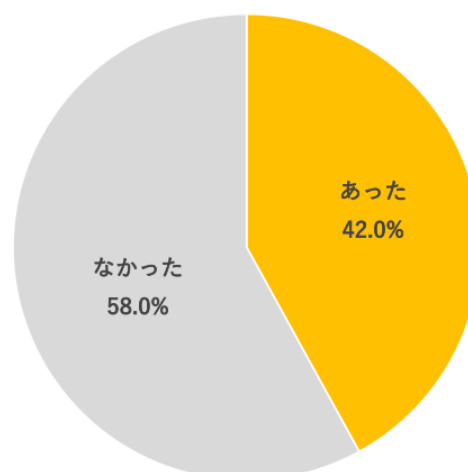
では、今回調査を行った働く女性にとって、Femtech はどんな役割を果たす可能性があるのでしょうか？働く女性の現状と、職場における Femtech の導入可能性などに焦点をあてて調査を行ってみました。

■現在の健康状態については、65%以上の女性が「健康（通院もしておらず、体調も万全）」と回答。ただし、【女性のからだ・健康の悩み】が原因で働いて困った経験がある女性は42%。特に「精神的ストレス（21.4%）」「更年期・年齢によるホルモンのゆらぎ（15.3%）」「月経・生理にまつわる身体的な悩み（12.9%）」。自身の勤務先が【女性のからだ・健康の悩み】に取り組んでいるかという設問に対し、85%の人が取り組んでいると「感じない」という結果に。まだまだ各企業で改善の余地あり。

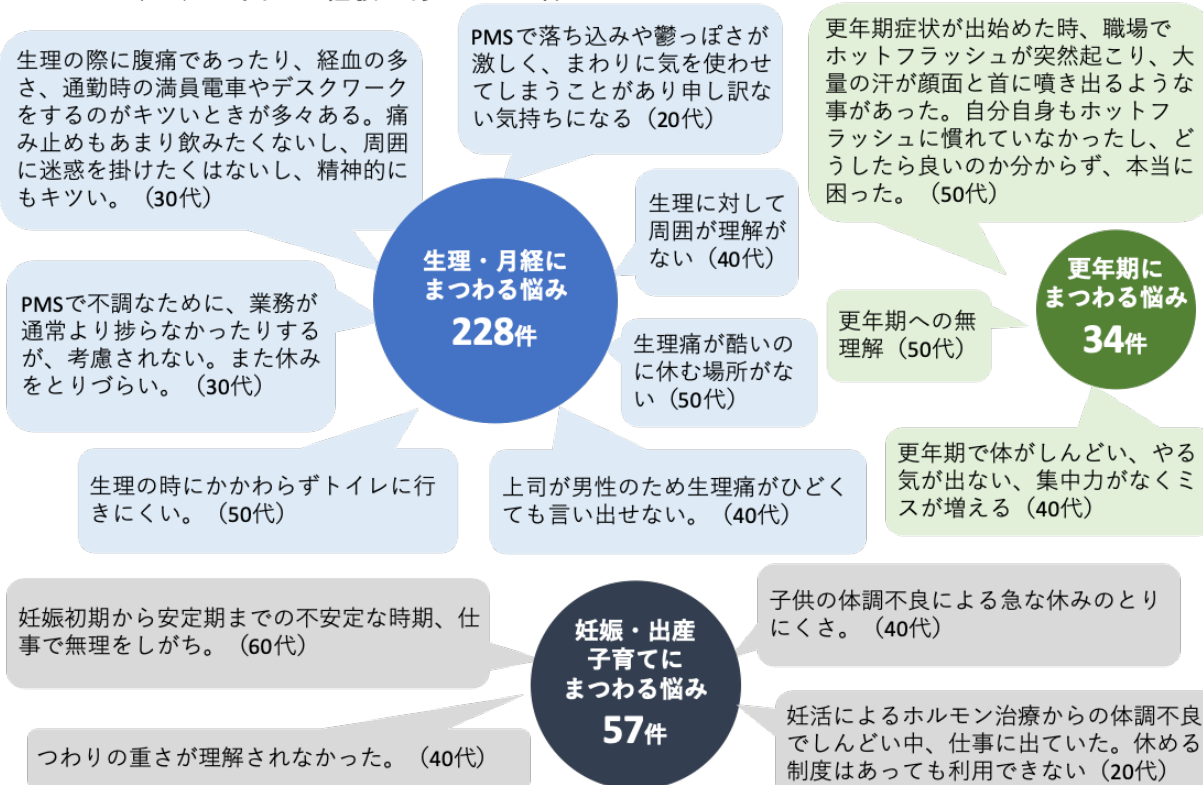
Q6.あなたの現在の健康状態について教えてください (SA) n=1000名



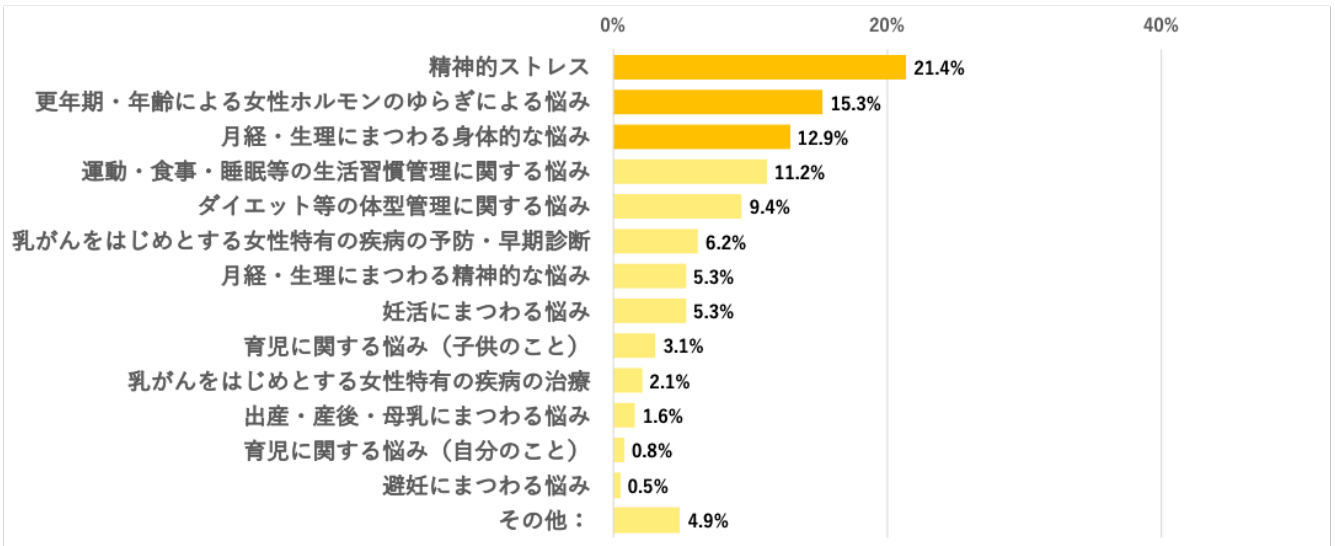
Q7.【女性のからだ・健康の悩み】が原因で、働いていて困った経験はありますか？ (SA) n=1000名



Q8.自身の【女性のからだ・健康の悩み】が原因で、働いていて困った経験はどのようなものでしたか？ (FA) n=困った経験があった420名

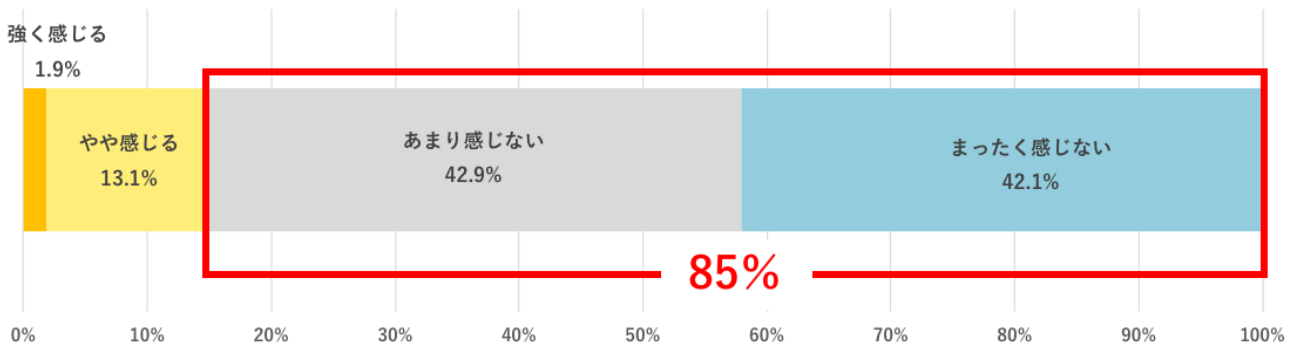


Q9.【女性のからだ・健康の悩み】のうち特に働く上で課題になっているものはどんなものですか？（SA） n=1000名



	1位	2位	3位
20代	月経・生理にまつわる 身体的な 悩み 28.5%	月経・生理にまつわる 精神的な 悩み 13.0%	精神的ストレス 12.0%
30代	月経・生理にまつわる 身体的な 悩み 21.0%	精神的ストレス 19.0%	妊活にまつわる悩み 13.5%
40代	更年期・ホルモンのゆらぎによる悩み 29.0%	精神的ストレス 20.5%	月経・生理にまつわる 身体的な 悩み 11.0%
50代	精神的ストレス 28.0%	更年期・ホルモンのゆらぎによる悩み 26.5%	生活習慣管理に関する悩み 16.0%
60代	精神的ストレス 27.5%	生活習慣管理に関する悩み 17.5%	更年期・ホルモンのゆらぎによる悩み 14.0%

Q10.ご自身の勤務先が【女性のからだ・健康の悩み】に何か取り組んでいると感じますか？（SA） n=1000名



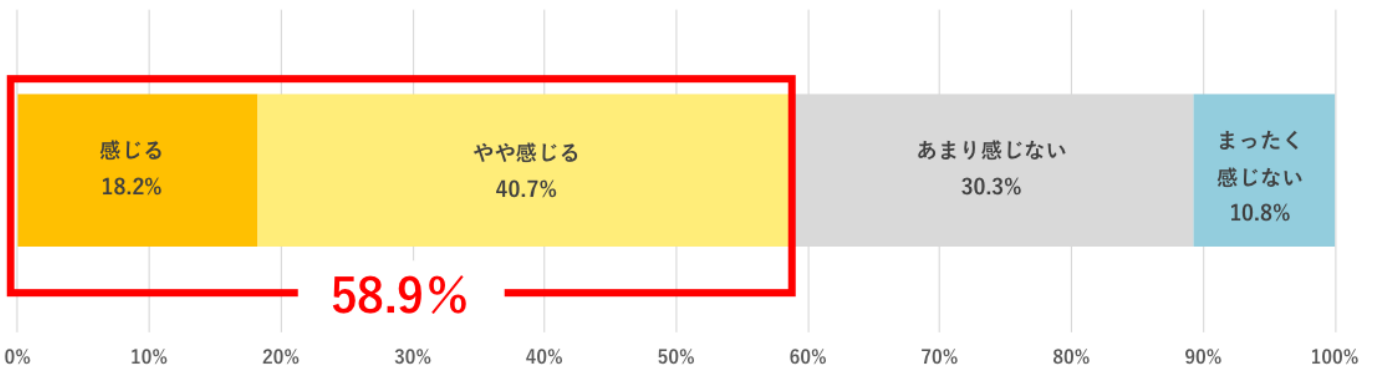
Q11.ご自身の勤務先が【女性のからだ・健康の悩み】に何か取り組んでいると感じるのはどのような点ですか？（FA） n=取り組んでいると感じる140名

- 周囲の理解と気遣いがある（40代）
- 女性医師の専用窓口相談がある（40代）
- 生理休暇や子看護休暇などの休暇がとりやすい環境にある（40代）
- 婦人科健診等への補助が充実している（50代）
- 女性用の休暇名称公募や、女性専用休憩個室の取り組みがある（40代）
- 不妊治療休暇がある（30代）
- 外部コンサルタント機関と契約して相談できる仕組みがある（60代）

■【女性のからだ・健康の悩み】によって、約60%の女性が仕事のパフォーマンスの低下を感じる。それらの悩みの解決によって改善されると思うパフォーマンスの平均値は+41%。Femtechによる解決が、働く女性の活躍を広げる可能性が考えられる。

■勤務先が Femtech 分野のツールを福利厚生で提供してくれるとすれば利用したい人は50%以上。利用にあたっての課題は「プライバシー」や「費用」の声。

Q12. 【女性のからだ・健康の悩み】によって仕事のパフォーマンスが低下していると感じたことはありますか？（SA）n=1000名



Q13. Femtech等の取組みで、働く上での【女性のからだ・健康の悩み】が解決された場合、自分自身の仕事のパフォーマンスはどれくらいあがると考えられますか？（FA）n=1000名

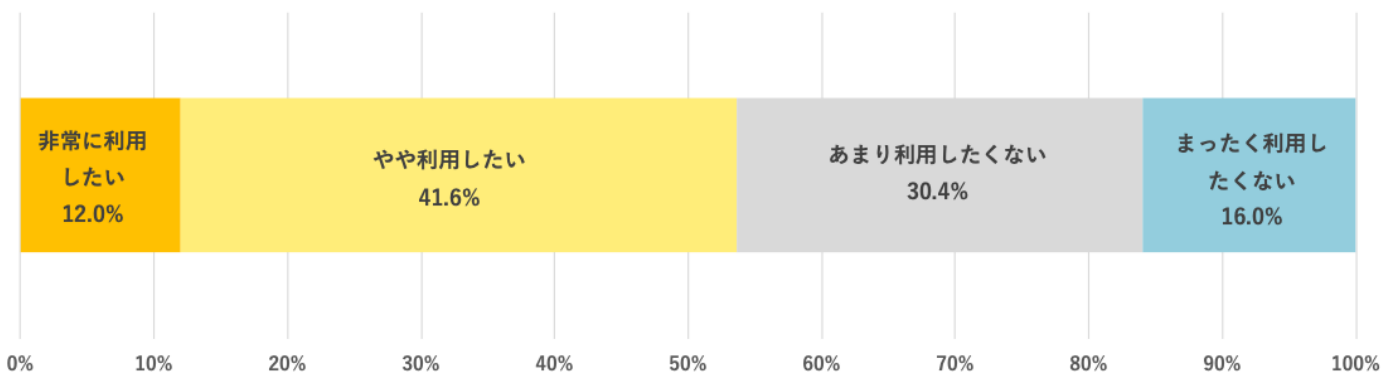
現状 **+41%**

*Q13注：回答者それぞれが現状を100%とした場合に、どれくらいパフォーマンスがプラスされるかを0~100の幅で回答。その平均値を集計した結果となります。

Q14. 【女性のからだ・健康の悩み】について、勤務先が解決のためのツールを福利厚生等で提供してくれるとすれば利用したいですか。（SA）n=1000名

*解決のためのツールとは、例えば「女性のための健康/生活習慣管理アプリ」や「テクノロジーを利用した乳がん等の疾病早期診断補助」などを指します。

*原則利用にあたっては匿名性が守られることを前提とします。



PART 4. 今後の Femtech の可能性

今後、取組みが広がることで働く女性の様々な悩みを解決できる可能性がある Femtech ですが、どんな分野のサービスについて、市場の可能性は広がるのでしょうか？各分野ごとに、悩みを解決することができるサービスにはどれぐらいの費用を投下してもよいと考えるかについて調査してみました。

■今後の Femtech サービスの利用意向。有料での利用意向が 30%を超えるのは「疾病の予防・早期診断（31%）」「疾病の治療（31%）」「生活習慣管理（31%）」「精神的ストレス（30%）」。

■全 14 分野のサービスに対して投下できる費用の合計は 1 人あたりの年間平均で 8,359 円となり、月額に換算する約 700 円相当。投下可能金額が高くなる分野は 1 位「疾病の治療（1,225 円）」、2 位「疾病の予防・早期診断（1,006 円）」、3 位「精神的ストレス」（905 円）。

Q15. 今後それぞれ以下の分野の Femtech サービスが開発されたら、それぞれいくらぐらい年間の費用をかけられますか？（SA）n=1000 名

	年間平均投下可能金額 利用者全体	有料サービス 利用意向
1. 月経・生理にまつわる精神的な悩み	¥381	17%
2. 月経・生理にまつわる身体的な悩み	¥424	19%
3. 妊活にまつわる悩み	¥558	16%
4. 避妊にまつわる悩み	¥308	12%
5. 更年期・年齢による女性ホルモンのゆらぎによる悩み	¥711	29%
6. 出産・産後・母乳にまつわる悩み	¥435	14%
7. 育児に関する悩み（子供のこと）	¥367	16%
8. 育児に関する悩み（自分のこと）	¥342	14%
9. 乳がんをはじめとする女性特有の疾病の予防・早期診断	¥1,006	31%
10. 乳がんをはじめとする女性特有の疾病の治療	¥1,225	31%
11. ダイエット等の体型管理に関する悩み	¥599	27%
12. 運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み	¥692	31%
13. 精神的ストレス	¥905	30%
14. その他	¥408	11%

Q15-2. 今後それぞれの分野の Femtech サービスが開発されたらそれぞれいくらぐらい年間の費用をかけられますか？（SA）n=1000 名

1 人あたりの年間平均投下可能金額の合計

8,359 円

1 ヶ月あたり

697 円

*Q15-2 注：全回答者の 14 分野への年間投下可能金額の平均値の合計から算出しました。

以上